

2014年度 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2015年2月17日

A red triangle graphic is located in the bottom right corner of the slide.

1. 2014年度 連結業績概要 P.3
2. 2015年度 連結業績予想 P.9
3. 経営の基本的な考え方 P.18

1. 2014年度 連結業績概要

2014年度 事業環境概要

◆ タイヤ需要

2014年通期 新車用タイヤ需要

	乗用車用 ラジアル (対前年比)	トラック・バス用 ラジアル (対前年比)
日本	101%	113%
北米	106%	118%
欧州	102%	97%
アジア(*) 計	107%	92%

2014年通期 補修用タイヤ需要

	乗用車用 ラジアル (対前年比)	トラック・バス用 ラジアル (対前年比)
日本	102%	106%
北米	105%	110%
欧州	102%	104%
アジア(*) 計	112%	102%

(*) タイ、インドネシア、インド、中国
 ※需要数値は当社推定。

◆ 為替

	2014年			(参考) 13年通期
	上期	下期	通期	
USドル	102	109	106	98
ユーロ	140	140	140	130

◆ 原材料

相場動向（平均価格）推移

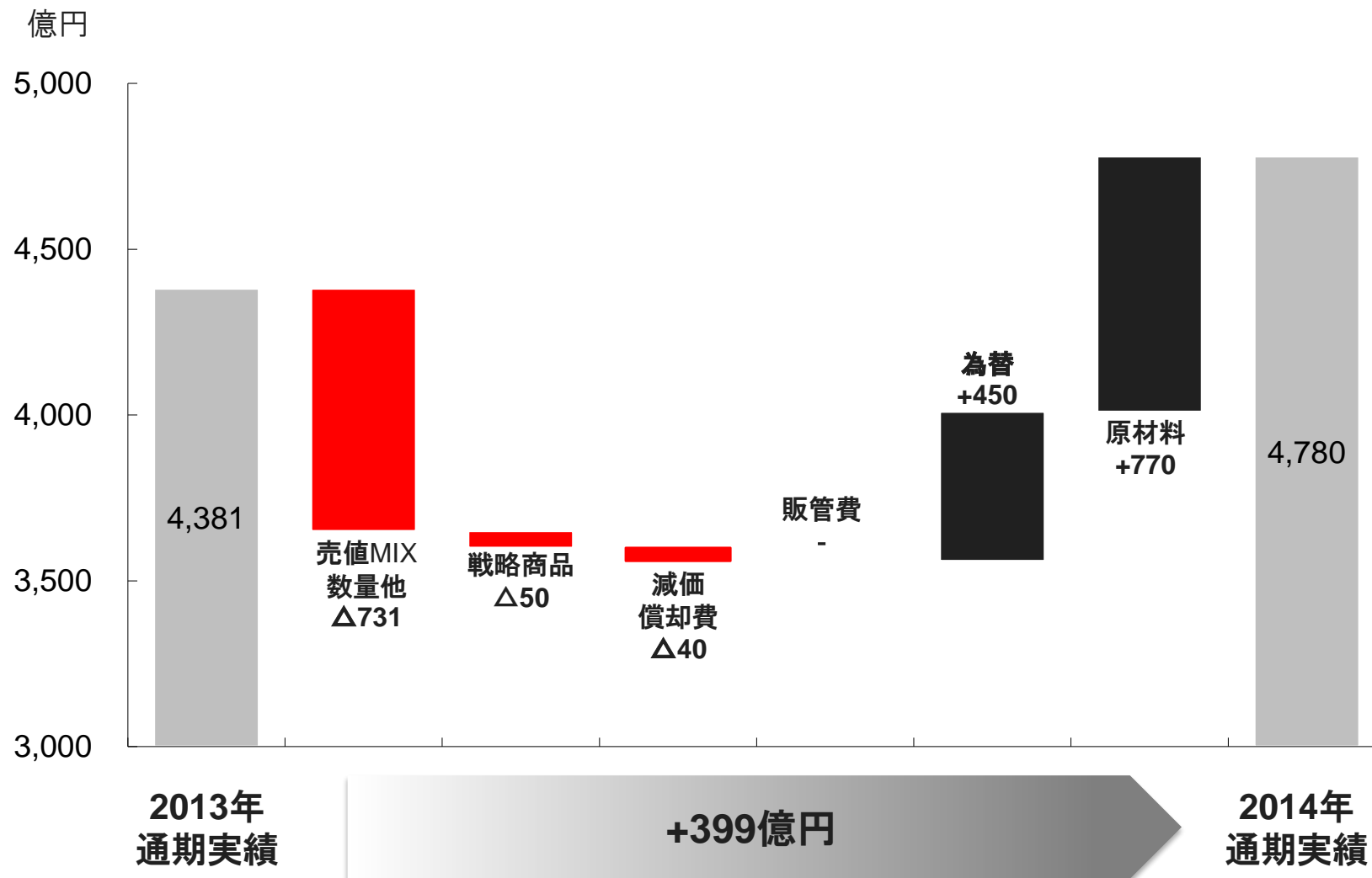
	2014年			(参考) 13年通期
	上期	下期	通期	
天然ゴム <TSR20>* (¢/kg)	185	155	170	251
天然ゴム <RSS#3>* (¢/kg)	218	171	194	279
原油 <WTI> (\$/bbl)	100	85	92	97

*source : Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格参照

2014年度 連結業績概要

	USDドル	98円	106円	+8円	101円
(単位:億円)	ユーロ	130円	140円	+10円	138円
	2013年 通期実績	2014年 通期実績	増減(%)	(参考 '14/8/8発表) 2014年 通期予想	
売上高	35,680	36,739	+3	36,500	
タイヤ部門	30,369	30,933	+2	30,800	
多角化部門	5,462	6,018	+10	5,800	
営業利益	4,381 (利益率) 12.3%	4,780 (利益率) 13.0%	+9 (利益率)+0.7%	4,750 (利益率) 13.0%	
タイヤ部門	3,994	4,358	+9	4,340	
多角化部門	385	421	+9	410	
経常利益	4,347	4,632	+7	4,540	
特別損益(+:損)	946	△145	—	-	
純利益	2,020	3,005	+49	2,930	
1株当たり配当金	57円	100円	+43円	80円	

2014年度 営業利益増減要因（前年比）



2014年度 所在地別セグメント業績概要

(単位:億円)

		2013年 通期実績	2014年 通期実績	増減(%)	(参考 '14/8/8発表) 2014年 通期予想
	日本	12,703	12,649	Δ0	12,500
	米州	16,519	17,681	+7	17,200
	欧州	4,233	4,392	+4	4,400
	その他	8,627	8,415	Δ2	8,600
連結 売上高		35,680	36,739	+3	36,500

	日本	2,195	2,101	Δ4	2,010
	米州	1,564	1,802	+15	1,740
	欧州	20	203	+895	190
	その他	802	668	Δ17	820
連結 営業利益		4,381	4,780	+9	4,750

2014年度 貸借対照表及びキャッシュフローハイライト

	2013年 期末実績	2014年 期末実績	対前年末
総投下資本残高 (億円)	35,770	39,609	+3,838
純資産 (億円)	18,629	21,466	+2,836
自己資本比率 (%)	50.5	52.4	+1.9
有利子負債<ネット> (億円)	2,396	2,028	△368
	2013年 実績	2014年 実績	対前年
営業CF (億円)	4,717	4,286	△431
投資CF (億円)	△2,652	△3,056	△404
フリーCF (億円)	2,065	1,229	△836
設備投資 (億円)	2,749	2,963	+214
減価償却費 (億円)	1,761	1,883	+121
ROA (%)	6.1	8.0	+1.9
ROE (%)	12.7	15.5	+2.8

2. 2015年度 連結業績予想

2015年度 事業環境見通し

◆ タイヤ需要

2015年通期 新車用タイヤ需要見通し

	乗用車用 ラジアル (対前年比)	トラック・バス用 ラジアル (対前年比)
日本	93%	92%
北米	102%	102%
欧州	102%	102%
アジア(*) 計	106%	106%

2015年通期 補修用タイヤ需要見通し

	乗用車用 ラジアル (対前年比)	トラック・バス用 ラジアル (対前年比)
日本	98%	98%
北米	99%	105%
欧州	100%	99%
アジア(*) 計	114%	105%

(*) タイ、インドネシア、インド、中国

※需要数値は当社推定。

◆ 為替

	2013年	2014年	2015年
USドル	98	106	115
ユーロ	130	140	136

◆ 原材料

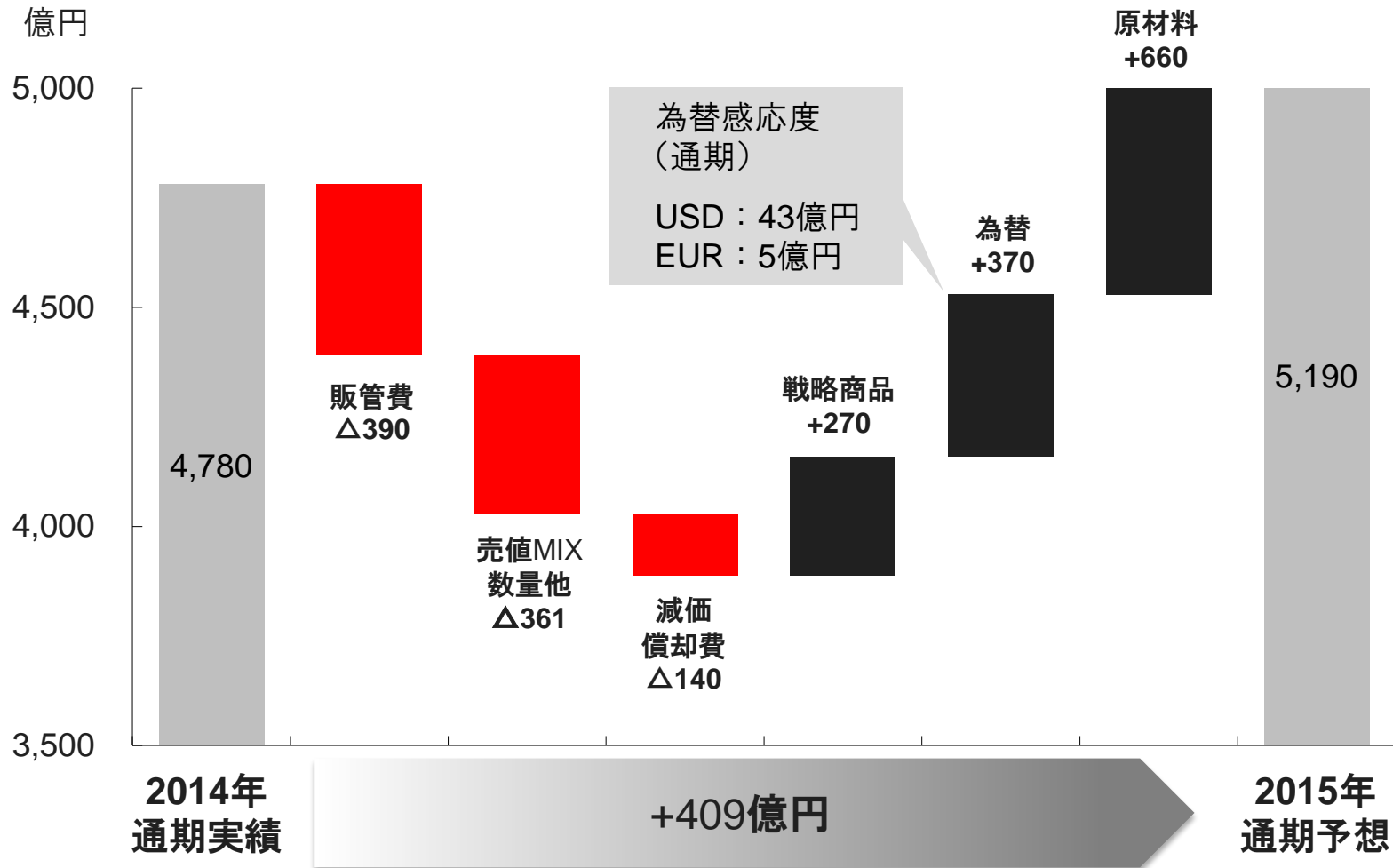


*source : Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格参照

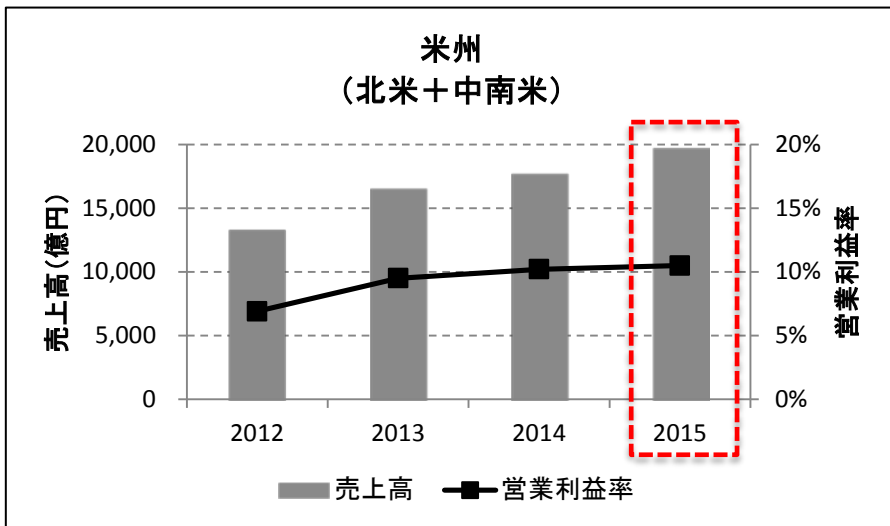
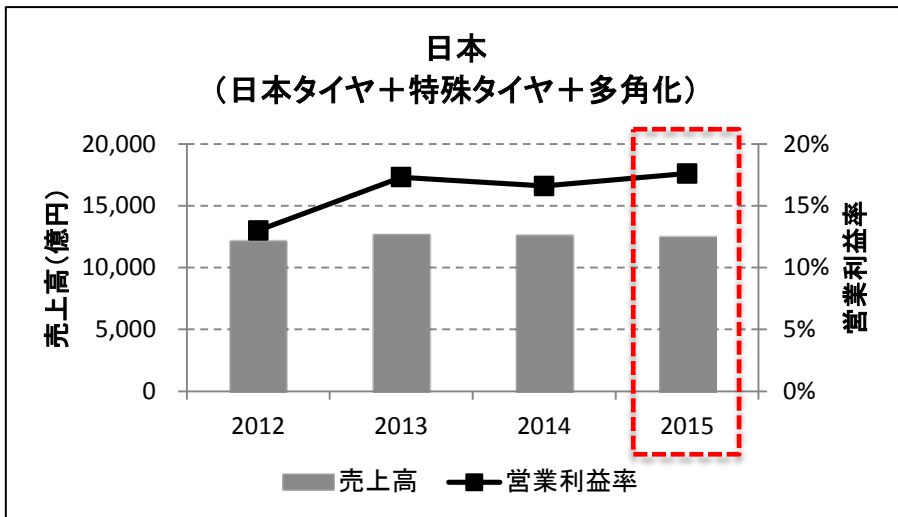
2015年度 連結業績予想

		USDル	106円	115円	+9円
(単位: 億円)		ユーロ	140円	136円	△4円
		2014年 通期実績	2015年 通期予想	増減(%)	
売上高		36,739	39,800	+8	
	タイヤ部門	30,933	33,400	+8	
	多角化部門	6,018	6,600	+10	
営業利益		4,780 (利益率)13.0%	5,190 (利益率)13.0%	+9 (利益率) - %	
	タイヤ部門	4,358	4,640	+6	
	多角化部門	421	540	+28	
経常利益		4,632	5,010	+8	
純利益		3,005	3,190	+6	
1株当たり配当金		100円	120円	+20円	

2015年度 営業利益増減要因予想（前年比）



2015年度 所在地別セグメント業績予想①



(単位:億円)

	2015年 通期予想	前年比 (%)
売上高	12,500	△1
営業利益	2,200	+5

<2015年 補修用タイヤ販売本数 (前年比)>

乗用車用ラジアル	若干の増
トラック・バス用ラジアル	若干の増
建設・鉱山車両用 超大型ラジアル	若干の増
建設・鉱山車両用 大型ラジアル	1割弱の増

(建設・鉱山車両用ラジアルタイヤ販売はゴム量ベース、新車用含む)

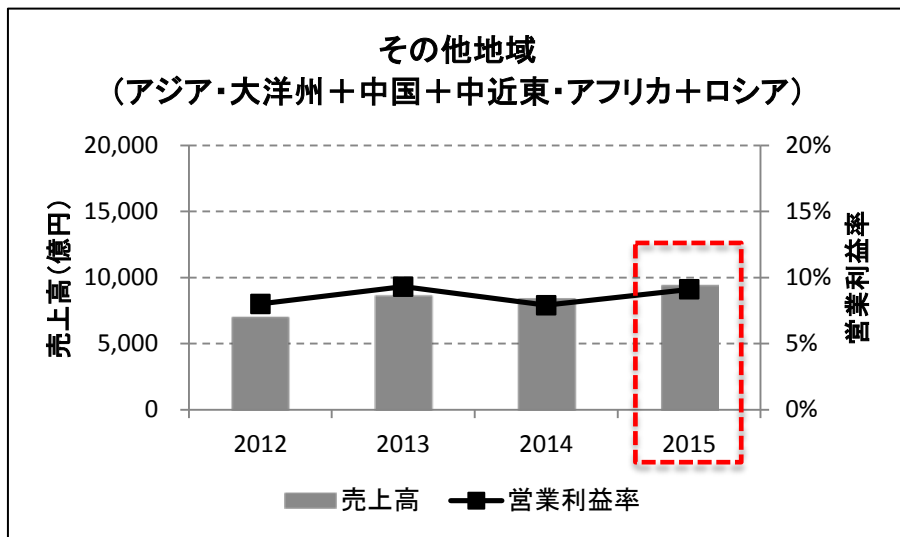
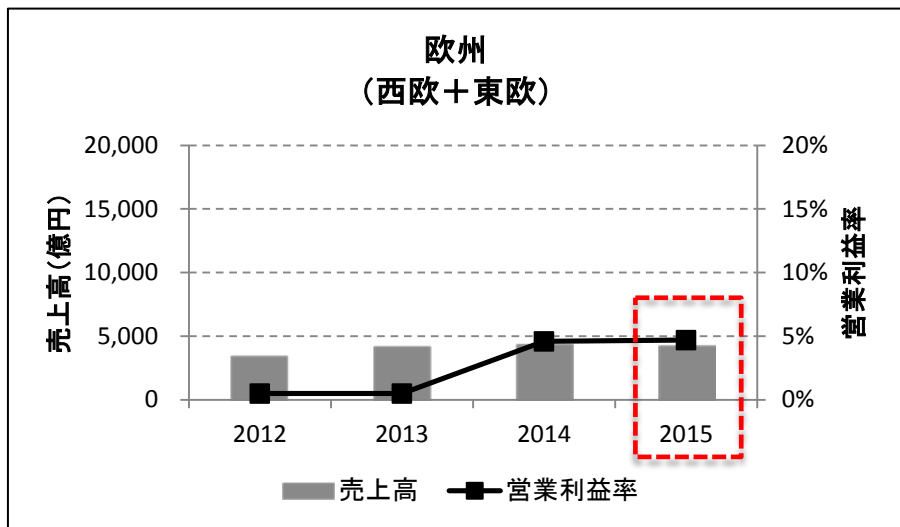
(単位:億円)

	2015年 通期予想	前年比 (%)
売上高	19,900	+13
営業利益	2,070	+15

<2015年 補修用タイヤ販売本数 (前年比)>

乗用車用ラジアル	若干の増
トラック・バス用ラジアル	1割弱の増

2015年度 所在地別セグメント業績予想②



(単位: 億円)

	2015年 通期予想	前年比 (%)
売上高	4,300	△2
営業利益	200	△2

<2015年 補修用タイヤ販売本数 (前年比)>

乗用車用ラジアル	1割強の増
トラック・バス用ラジアル	1割弱の増

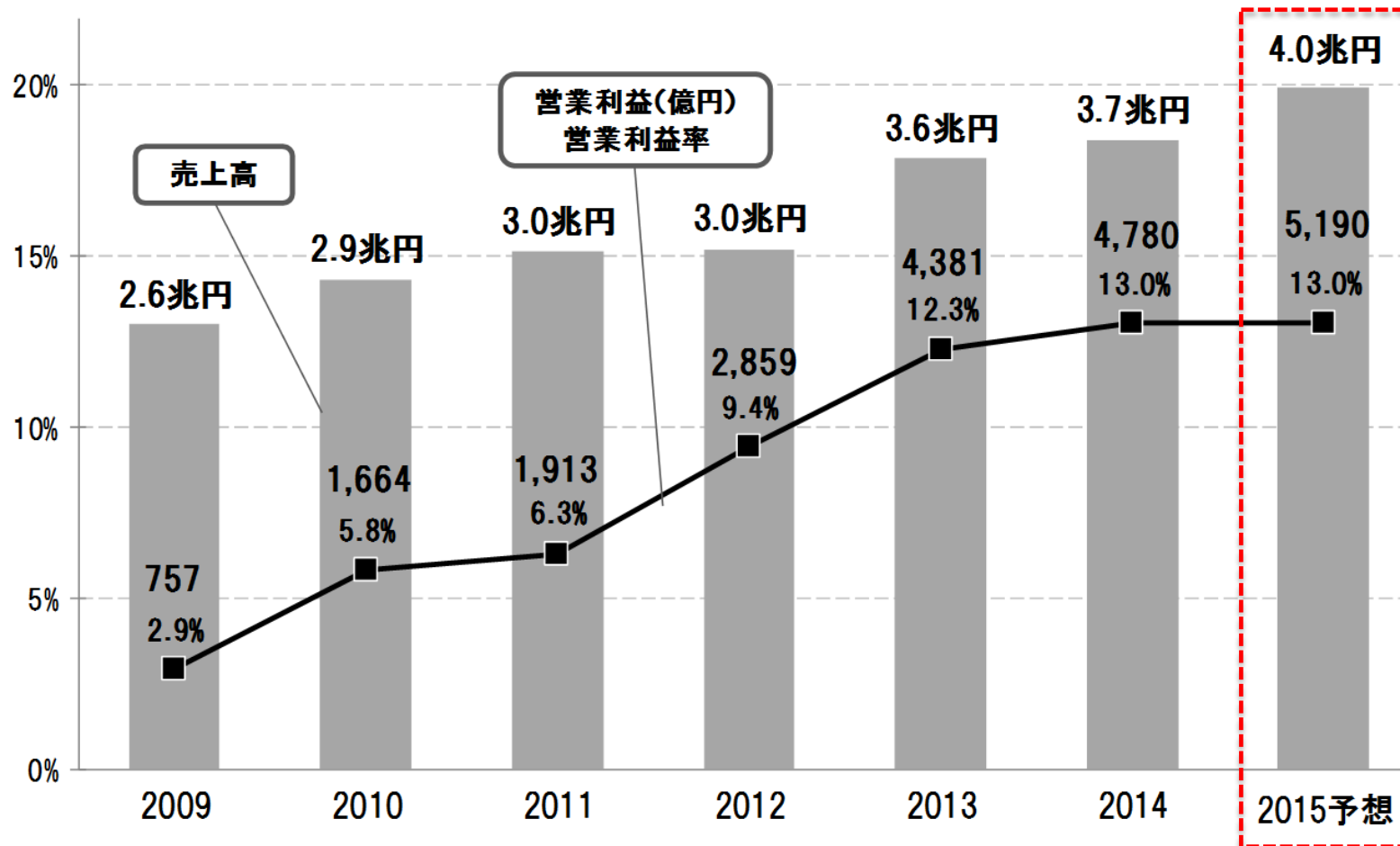
(単位: 億円)

	2015年 通期予想	前年比 (%)
売上高	9,500	+13
営業利益	870	+30

<2015年 補修用タイヤ販売本数 (前年比)>

アジア 大洋州	乗用車用ラジアル	1割強の増
	トラック・バス用ラジアル	2割強の増
中国	乗用車用ラジアル	3割強の増
	トラック・バス用ラジアル	2割強の増

売上高・営業利益・ROA・ROEの推移



ROA	0.0%	3.6%	3.8%	6.0%	6.1%	8.0%
ROE	0.1%	8.9%	9.1%	13.7%	12.7%	15.5%

配当に関する基本方針

利益配分の考え方

- 更なる将来の成長に向けた備え
 - 適正な財務体質の維持
 - 株主還元
-
- 着実な収益力の向上
 - 財務体質の改善

配当方針の見直し

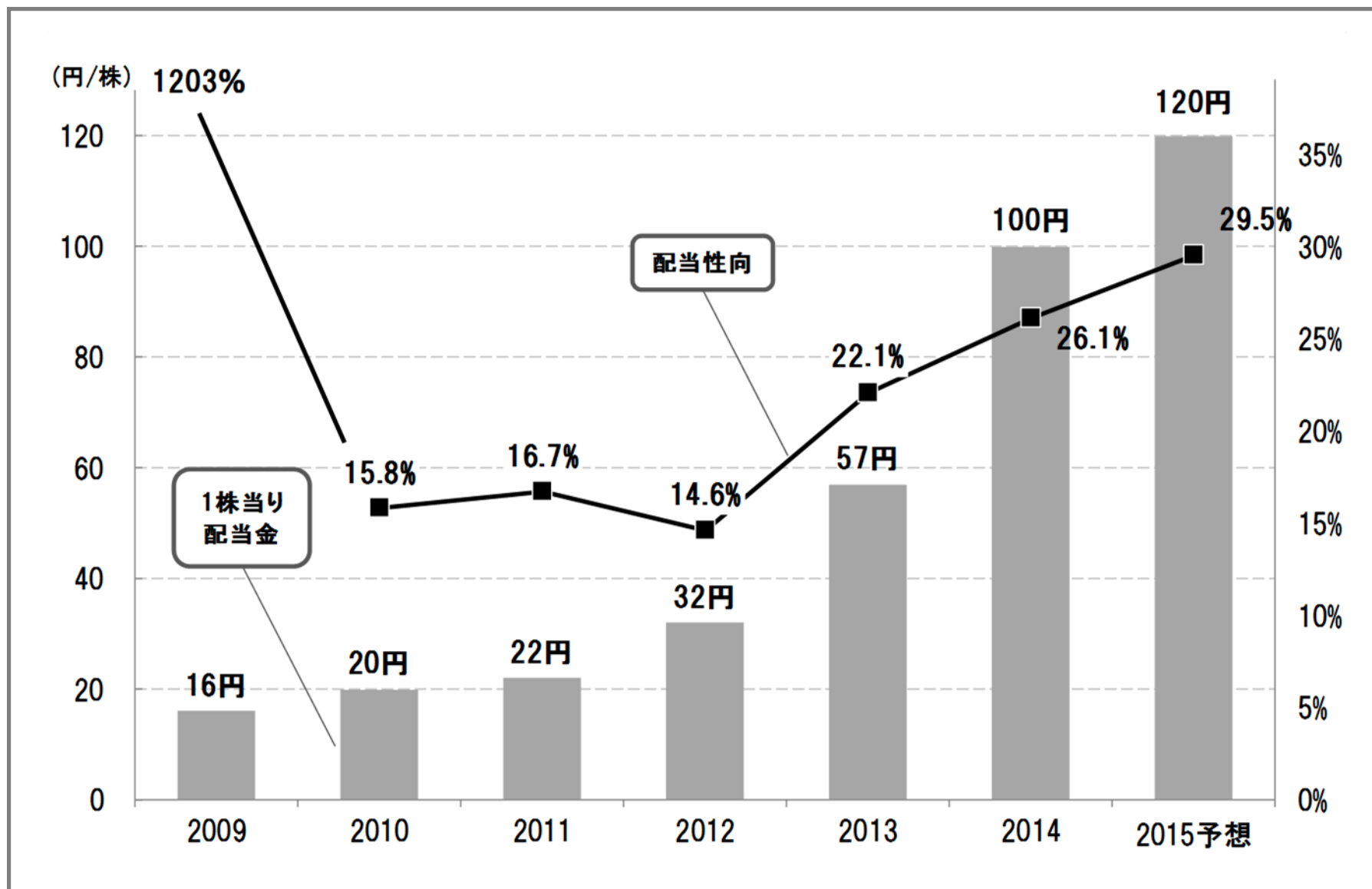
「当該期の業績、財政状態に加え、中期的な利益見通し、投資計画、キャッシュ・フロー等を総合的に勘案して、連結配当性向20%～40%を目安に安定した配当を継続的に実施。」（下線部：従来からの変更箇所）

2015年予想

配当： 120円/株(年間)

配当性向： 29.5%

配当金と配当性向の推移



3. 経営の基本的な考え方

フレームワークと重点課題： 不変

経営の最終目標

真のグローバル企業
業界において全てに「断トツ」

基本軸

企業理念

基本姿勢

Lean & Strategic (L&S)
Group Global最適(GG最適)

改革ツール

SBU組織体制
中期経営計画



重点課題

グローバル企業文化の育成
グローバル経営人材の育成
グローバル経営体制の整備

コミュニケーション、チームワーク、ボトムアップ



免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。